

Column

ワークライフバランス



鈴木(升谷) 敦子
環境科学研究科
自然共生システム学講座
助教

これまでワークライフバランスをあまり意識しないうえに、先日結婚したことを機に仕事と家庭について考えてみました。

私は、母が専業主婦だったこともあり、以前は「仕事をする女性」というものを具体的にイメージできませんでした。学生の頃には、仕事と家庭どちらも大変そうに思えて、両立できるかなと自信がありませんでした。今年で助教4年目ですが、実際に働いてみて考えは変わりました。一番大きな変化は、仕事を通して社会に貢献することにやりがいを感じるようになったことです。ぜひ仕事を続けていきたいと思うようになりました。

一昔前まで女性が一手に引き受けていた家事、育児、介護等はどうすればよいのか、という疑問は依然としてあります。男性・女性両方の価値観の変化や、支援制度の整備などにおいて今は転換期だと思います。

幸い、夫は私が働くことに賛成で家事も協力してやっています。家庭と両立させて仕事をしている先輩女性研究者から具体的に話を聞く機会も増え、参考になります。前向きに、仕事も家庭もこれからがんばっていきましょう。

Science Angel

平成27年度 サイエンス・エンジェル活動実績 (2015年11月1日現在)

- 6/23(火) 出張セミナー 秋田県立秋田南高等学校
- 6/29(月)-7/6(月) サイエンス・エンジェルスキルアップ講習会(全2回)
- 7/19(日) 「学都仙台・宮城サイエンスデイ2015」への出展
- 7/29(水)-30(木) オープンキャンパスfor女子高校生2015
- 8/1(土)-2(日) 国立科学博物館「サイエンススクエア2015」への出展
- 8/19(水) 出張セミナー 山形県立山形北高等学校
- 8/21(金) 「楽しい理科のはなし～不思議の箱を開けよう～」への出展
- 9/5(土) 出張セミナー 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
- 9/24(木) 出張セミナー 鳥取県立倉吉東高等学校
- 10/10(土)-11(日) 片平まつりへの出展
特別企画「サイエンス・エンジェルと話そう！
～女子の視点から見た理系の学び～」

平成27年度 サイエンス・エンジェル活動予定 (2015年11月1日現在)

- 11/14(土) 「みやぎサイエンスフェスタ」への出展
- 11/14(土)-15(日) 「サイエンスアゴラ2015」への出展
- 11/20(金) 出張セミナー 宮城県石巻西高等学校
- 11/21(土) 出張セミナー 山形県立山形西高等学校
- 12/4(金) 出張セミナー 宮城県宮城第一高等学校
- 3/5(土) 平成27年度サイエンス・エンジェル活動報告会

Report of the Seminar

外部資金獲得セミナー
平成27年度第2回
沢柳フェロー・ランチミーティングの開催



女性リーダー育成の一環として、沢柳フェローの先生方を囲んで、講師に理学研究科の寺田真浩教授をお迎えし、外部資金獲得のための情報交換を目的としたランチミーティングを開催しました。当センター副センター長である田中真美教授の司会進行のもと、寺田教授や沢柳フェローの先生方からは「申請分野の選択方法をよく検討するとよい」「熱意を伝えることが大切」など具体的な助言がありました。また、活発な質疑応答も交わされ、参加者からも「審査のポイントがよく分かった」「科研費の書き方等に関して、アドバイスをいただける機会がなかったので、ありがたかった」との声が聞かれました。



【開催日】 2015年9月3日(木) 12:00-13:30
【会場】 片平北門会館2Fセリシール
【講師】 理学研究科 寺田真浩 教授
【参加した沢柳フェロー(50音順、所属部局省略)】
栗原和枝教授、田中真美教授、永次史教授
【参加者】 18名

TUMUG支援事業募集のお知らせ

東北大学では、出産・育児期の研究者やリーダーを目指す女性研究者のための支援としてTUMUG支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)を行っております。平成28年度TUMUG支援事業は、平成28年1月に募集予定です。プログラムによって締切日や対象者が異なりますのでご注意ください。	研究支援要員 (10名)
	研究支援要員(シェア型) (6名)
	ベビーシッター利用料等補助 (39名)
	スタートアップ研究費 (10名)
	研究スキルアップ経費 (15名)
	サイエンス・エンジェル (90名)

()内は平成27年度の採択状況
(ただし、研究スキルアップ経費は第1回のみ)

Information

東北大学一般事業主行動計画

東北大学では、「東北大学一般事業主行動計画」(計画期間:平成27年度～平成31年度)で以下の5つの目標を掲げ、仕事と家庭の両立支援体制の充実及び研究・労働環境の改善を目指しています。

- 目標1 仕事と家庭の両立支援のための学内制度の充実を図る。
- 目標2 職員が利用できる学内制度の周知方法の改善を図る。
- 目標3 学内託児施設の拡充を図る。
- 目標4 所定時間外労働の縮減を図る。
- 目標5 年次有給休暇を取得しやすい環境づくりの推進を図る。

詳しくは、人事企画部のホームページ(学内限定)をご覧ください。「子育てを行う職員への支援制度一覧」等、役に立つ情報が整理して提供されています。センターホームページでもTUMUG支援事業や学内託児施設に関する情報を提供しています。



2015
VOL. 4

「TUMUG」とは「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。



楽しい理科のはなし

TUMUG Information

女性研究者による研究発表・交流会

第1回 TUMUG Forum

今年は、東北大学において「杜の都女性研究者ハードリング支援事業」をきっかけとした女性研究者支援が本格的に開始されて10年目にあたります。男女共同参画推進センターでは東北大学の女性研究者のリーダー育成の一環として、着任後5年以内の女性研究者が研究内容及び研究成果を学内で発信する場としてTUMUG Forumを開催することにいたしました。今回は田中真美教授(工学研究科/医工学研究科)および末松和子教授(高度教養教育・学生支援機構)を座長とし、4名の女性教員が発表します。講演の後には発表者を囲んで交流会を実施します。男女を問わず、学内教職員および大学院生、学生の皆様のご参加をお待ちしています。



日時: 2015年11月24日(火)
13:00-15:30
場所: 青葉記念会館
4階会議室
(青葉山キャンパス)

男女問わず、学内教職員、大学院生、学生の皆さん、ご参加お待ちしております。

発表者および発表タイトル



鶴岡 典子
工学研究科 助教
「微小還流を用いた皮膚貼り付け型乳酸センサの開発」



Carine J. Yi
災害科学国際研究所 助教
「GISを利用した多様な災害分析紹介-USLEモデルを用いた、土壌流出によるセシウム137の流出推測など」



有松 唯
学際科学フロンティア研究所 助教
「国家の起源と成り立ち-人類史の新たな画期をもとめて-」



菅 陽子
経済学研究科 講師
「環境教育を取り入れた日本語クラスの試み-中国大連における実践活動と今後の課題」

詳細は本センターのTUMUG Forumに関するホームページ
<http://www.morihome.tohoku.ac.jp/blog/2015/10/09/3049/>をご覧ください。



東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

TEL 022-217-6092

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
E-mail tumug@morihome.tohoku.ac.jp HP www.morihome.tohoku.ac.jp



Event Information

第12回 東北大学男女共同参画シンポジウム
「科学とジェンダー」

●日時 2015年11月21日(土)13:00-17:00 ●場所 医学部開設百周年記念ホール(星陵オーデトリウム)

入場無料・事前申込不要 どなたでもご参加いただけます!



東北大学は1907年に東北帝国大学として創立されて以来、日本の科学の発展をリードしてきました。本シンポジウムでは、科学の知/科学者世界におけるジェンダーについて討論し、科学領域における女性研究者のさらなる活躍を目指す東北大学のメッセージを発信します。

当日は、第2回澤柳記念賞授賞式および受賞者による講演の後、2つの特別講演を行います。皆さん、お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

詳細は男女共同参画委員会の男女共同参画シンポジウムに関するホームページ <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjo/index3.html> をご覧ください。

来賓 文部科学省
研究振興局長 小松 弥生 氏

特別講演Ⅰ
「近代科学の歴史とジェンダー」
講師 三重大学 名誉教授 小川 眞里子 氏

特別講演Ⅱ
「男女共同参画は科学と高等教育をいかに変革できるか」
講師 明治学院大学 教授 柘植 あづみ 氏

Winning Prize!

受賞課題及び受賞者決定

第2回 澤柳記念賞

澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞
(通称:澤柳記念賞)

東北大学では平成26年度より澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(通称:澤柳記念賞)を創設しました。本賞は男女共同参画社会をめざす活発な取組の一助となるよう、アカデミアにおける男女共同参画の先駆として各分野で活躍し、多大な貢献をされた方々を選考し顕彰するものです。

第2回澤柳記念賞は、本賞を日本における女性研究者の研究環境の改善に貢献されてきた大坪久子氏に、奨励賞を大学院生による中高生を対象とした文理融合型の出前授業を行っている新大Witsに授与することになりました。

A賞
澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

日本大学 薬学部薬学研究所
上席研究員 大坪 久子氏

〈課題名〉
日本の理工系女性研究者支援を牽引した先導的活動

B賞
澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

新大 Wits(しんだいういつ)※

〈課題名〉
“新大 Wits”による
出前授業活動から生まれた
男女共同参画多世代キャリア教育

※新大Witsは、サイエンス・セミナー(出前授業)を行っている新潟大学大学院生の愛称

Support Activity

工学系女性研究者
育成支援推進室(ALicE)の取組



ALicEキャラクター
ずんだぬき

工学系*女性研究者育成支援推進室(ALicE、Association of Leading Women Researchers in Engineering)は①女子学生・女性研究者の育成・支援、②工学分野における男女共同参画意識の醸成、③女子学生が将来継続的に働く意識を高めるためのグランドデザインの策定を目的として、平成25年度に設置されました。

女性研究者の研究に係る出張経費を助成するSTEP-ALICEプログラム、育児・社会貢献と研究との両立を支援する事務補佐員の派遣、工学系ベビーシッター利用料等補助などの研究支援活動を行っており、これまで7名、8名、3名の方が利用しました。さらに、今年8月には託児室「ずんだぬきずるーむ」を青葉山キャンパス内に設置し、育児と研究活動の両立のための環境整備を推進しております。



交流会の様子

工学系に所属する女子学生・女性研究者を対象とした交流会の開催やメーリングリストによる情報発信なども行っております。また、「ちょっと聴いてほしい・訊いてみたい」という際に気軽に相談ができる、おはなし窓口も開設しております。

ALicEの活動詳細についてはWebの他、お気軽におはなし窓口へお問い合わせください。

※工学系:工学研究科、情報科学研究科、環境科学研究科、医工学研究科、災害科学国際研究所、未来科学技術共同センター、環境保全センターおよび国際集積エレクトロニクス研究開発センター

ALicE/東北大学工学系女性研究者育成支援推進室(工学研究科総務課総務係内)
TEL: 022-795-5040(内線 5040)
H P: <http://alice.eng.tohoku.ac.jp/>
おはなし窓口: alice_ohanashi@m.tohoku.ac.jp



託児室(ずんだぬきずるーむ)

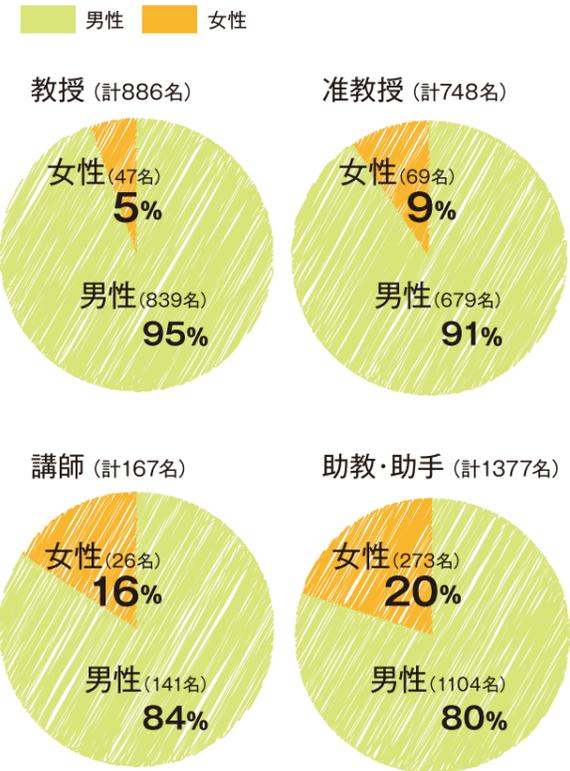
Women Researchers

教員に占める女性の割合
～東北大学の場合～

女性の活躍が求められる中、我が国においては大学や企業で活躍する女性研究者の割合が少ないと指摘されています。東北大学も教員に占める女性の割合が13.1%(助教・助手を除く場合は7.9%)(平成27年5月現在)と例外ではありません。グラフから分かるように、職位が上がるにつれて女性教員の割合は低くなっています。教授の場合、886名のうち女性は47名と5%を占めるに過ぎません。東北大学では、杜の都ジャンプアップ事業等により女性教員を積極的に採用してきましたが、まだまだ女性の占める割合が少ないのが現状です。今後とも皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

東北大学における男女構成比と推移

(平成27年5月1日現在)



Activities

センター関係者による学外での活動状況

(2015年6月～9月)

2015年9月24日
日本遺伝学会第87回大会男女共同参画
ランチョンワークショップでの講演
「男女共同参画への東北大学の取組」(田中真美(副センター長))

Science Angel Information



オープンキャンパス
for女子高校生2015

女子中高生の理系進路選択を
応援しています

東北大学サイエンス・エンジェルは、出張セミナーやオープンキャンパスへの出展を行い、女子中高生の理系進路選択を応援しています。

今年、「オープンキャンパスfor女子高校生2015」(理学研究科と共催)に加えて、片平地区を中心とする東北大学附置研究所の一般公開イベントである片平まつり2015「感じてみよう、科学のチカラ」(10月10日・11日)の特別企画として、「サイエンス・エンジェルと話そう!～女子の視点から見た理系の学び～」を2日間4回にわたって開催しました。各回2名のサイエンス・エンジェルによる講演の後、グループに分かれて中高生とグループトークを行いました。

子ども達に科学を
身近に感じてほしい



特定非営利活動法人natural sciences主催の「学都仙台・宮城サイエンスデイ2015」では、昨年大人気だった導電糸を使って手芸感覚で電子工作を行う「ちくちく縫ってLEDが光る かわいい小物づくり」に加えて、新たに3ブース「紫キャベツでコースター」「振り子メトロノーム」「手作りプラネタリウム」を設けて、小学校高学年を中心とする子ども達に原理について説明し、一緒に工作や実験をしました。「楽しい理科のはなし2015」(河北新報社・東京エレクトロン宮城主催)ではプラスチックコップを使った工作「エコマイクをつくろう～音のふしぎ～」や化学反応でカラフルな球体を作る「カラフル人工いくらを作ろう!」の他、「オレンジパワーでスタンプを作ろう!」「ドロドロようかいをつかまえよう!」「けんぴきょうをのぞいてみよう」等、5つのブースに約500人の親子が訪れ、楽しい時間を過ごしてもらいました。



楽しい理科のはなし



サイエンスデイ